

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市原町児童館
2 指定管理者	特定非営利活動法人MIYAGI子どもネットワーク
3 指定期間	平成29年4月1日～令和4年3月31日
4 施設の利用状況	<p>《利用者数》</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和3年度 28,776人（前年度比 112.3%） うち のびすく宮城野利用者 9,273人（内訳 ひろば利用者 8,159人、託児利用者 1,114人） 令和2年度 25,625人 令和元年度 50,638人 <p>《事業》</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童に健全な遊びを与え、その健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とした児童厚生施設としての事業
5 収支の状況	<p>《費用》 ()は前年度決算額</p> <ul style="list-style-type: none"> 指定管理者に支払った費用 62,397千円 (61,710千円) その他市が負担した費用 0千円 (0千円) <p>《収入》</p> <ul style="list-style-type: none"> 使用料収入 2,673千円 (2,150千円) その他収入 3千円 (5千円)
6 利用者の声	<p>《実施状況》</p> <ul style="list-style-type: none"> 利用者アンケート、児童館運営懇談会、児童クラブ保護者懇談会を実施。

二 管理運営に係る評価（モニタリングシートの結果によって評価）

評価分野	所見	評価
I 総則	「児童館ガイドライン」等に基づき、設置目的を踏まえた施設運営上の基本方針を定め、職員への共通理解を図るとともに、館内掲示等で利用者にも周知している。職員の倫理保持・勤務規律遵守については、研修や会議、チェックシート等で確認する取り組みを行っている。また、地域の特性やニーズを踏まえながら各事業に取り組み、施設目的の達成に努めている。	33/33
II 施設の運営管理体制	職員の配置や業務内容の共有、開館の実績、経理書類の作成、個人情報の保護等について適切な管理体制が構築されている。また、各種マニュアルの整備、施設内外の点検、毎月の避難訓練等の実施により、利用者の安全に留意した運営に取り組んでいる。	30/30
III 施設・設備の維持管理	日常的・定期的な点検や清掃により、建物・設備・外構等が適切に維持管理されている。備品や鍵の管理も適切に行われているほか、施設内外の巡回や仙台市環境行動計画に則った取り組みも実施されており、安全で快適な環境が保たれている。	23/23
IV サービスの質の向上	名札の着用、児童館だよりの発行、ホームページの更新による利用情報の提供等、利用者が利用しやすい環境づくりに努めている。また、各種研修会への参加を通して職員の専門性を高めているほか、意見箱の設置、アンケートの実施等で利用者のニーズを把握し、施設運営に生かすなど、サービスの質の向上に努めている。	28/28
V 施設固有の基準	児童クラブにおいては、子ども達が安心して過ごせる生活の場としてふさわしい環境の整備と安全面の配慮が行われており、家庭や学校と情報共有を図り連携した育成支援に努めている。また、乳幼児向けの交流の場を工夫するなど、子育て家庭を支援するとともに、子育て支援クラブをはじめとする地域組織・団体・住民・関係機関との連携、相互交流を図りながら児童館の運営に取り組んでいる。	25/25

三 評価総括

《指定管理者（特定非営利活動法人MIYAGI子どもネットワーク）による自己評価》
<p>今年度は「地域特性を打ち出した原町児童館らしさ、のびすく宮城野らしさにこだわった事業」「コロナ感染状況下でも実施しやすい工夫した新たな子育て支援、子ども支援となる事業」を重点目標に、感染予防対策を継続し運営に取り組んだ。</p> <p>児童クラブは、児童の衛生指導等新しい生活様式の定着に努め、子どもたちが制限のある生活からストレスを抱えないよう、居室を広げ、日々の活動を工夫し遊びの充実を図った。恒例の「飛び出せ児童館」は遠足やミニ飛び出せを実施し、保護者の協力で行った「飛び込め児童館」は、保護者と児童が触れ合う満足度の高い行事となり、感染緩和期間には、子育て支援クラブやグランパグランマボランティアの活動を再開し、将棋大会は日頃の対局指導の成果が確認できる貴重な機会となった。</p> <p>地域や関係機関の協力を得て、野外で行った「サマーコンサート」や「クリスマスイルミネーション点灯式」規模を縮小しての「館行事」は利用者から好評を得た。</p> <p>のびすくは2度の休館を余儀なくされたが「できる支援」を心がけ、コロナ禍で行き場の少なくなった子育て家庭へ「のびすくさんぽ」と称して地域に出向き積極的に情報の発信を行い、徹底した感染対策を講じながら安心安全な居場所の提供と人数制限をしつつも、できる限り行事を実施し利用者のニーズに応えるよう努めた。</p> <p>コロナ禍の影響から、問題を抱える家庭や親の相談が増加し、内容によって関係機関と連携し、子育て相談員や利用者支援専門員が相談者の問題の軽減と緩和に努めた。</p> <p>更に、児童発達相談支援センターや区家庭健康課と協働し、3回の支援者ネットワーク会議を開催、子どもと子どもの発達に不安を抱える親の交流の場とより良い療育支援の充実を図り方向性の確立ができた。</p> <p>今年度も、コロナ禍で事業の中止や縮小を余儀なくされたが、児童館、のびすく共に概ね重点目標が達成できた。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>令和3年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止に係るまん延防止重点措置や宮城県・仙台市緊急事態宣言、宮城県緊急特別措置などの発令があったが、児童クラブに関しては、年間を通して受け入れを行った。この間、小学生や乳幼児親子の自由来館などは一部休止していたが、解除後も小学生の自由来館は土曜日のみ、乳幼児親子は平日午前のみと制限のある再開となった。年間を通して、感染症対策のための参加人数の制限や環境の工夫を行うなど様々な配慮と努力をしながらの児童館運営だった。</p> <p>放課後児童健全育成事業においては、館外活動である「飛び出せ児童館」を実施し、子どもたちの興味を捉え子どもたちがのびのびと楽しめる活動を行っている。「クリスマスイルミネーション点灯式」では、子どもたちがハンドベルの演奏を行うなど、活動を通して子ども達が達成感や自己肯定感を得る機会となった。</p> <p>令和3年度の新たな取り組みとして、グランパの協力による「将棋大会」、宮城野文化センターとの連携による「屋外サマーコンサート」を実施するなど、地域や関係機関とのつながりを大切にしながら、充実した事業が展開されている。</p> <p>のびすく宮城野としても、乳幼児親子の交流の場の提供や、関係機関と連携した相談事業の実施等により、子育て家庭の不安や負担の軽減に大きく貢献している。また、父親の育児参加促進や多胎児家庭の支援、子どもの発達に不安を抱える家庭の支援など、利用者のニーズに応じたイベントの企画・実施にも努めている。</p> <p>宮城野区まちづくり推進課および家庭健康課、地域の児童館や保育所とともに「地域はっぴい子育てプロジェクト」に参加し、臨時休館中には母親向けの冊子「ママらいふ手帳」の配布を通じた支援に取り組むなど、積極的に地域の関係機関や団体と連携を深めていることも評価できる。</p>	S

四 その他特記事項（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取り組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項
<p>令和3年度においても、新型コロナウイルス感染症の影響により臨時休館の期間が生じたほか、開館時には事業規模を縮小したため、従来よりも交流の場や相談機会の提供が制限されたが、平常時には単日で開催していたイベントを1週間を通じて開催することで密の回避しながら参加機会の確保に努めたほか、「のびすくさんぽ」と称して臨時休館中に地域に出向き積極的に情報発信をするなど、コロナ禍を踏まえた「できる支援」に積極的に取り組んだことも評価できる。</p>

◎ 評価担当課（施設所管課）：子供未来局子供育成部児童クラブ事業推進課